

街に溶け込むインフラ

日本は先進国の中では公共のごみ箱が少ないと言われています。欧州ではごみ箱が街の風景に溶け込んでいて、パリには3万基ほど設置されているとのデータもあります。アジアにおいても公共サービスとして行政が公道や公園に設置、管理している都市が多い印象です。

日本での公共ごみ箱の撤去は30年前の地下鉄サリン事件を境にテロ対策で進められた

と言われています。最近では観光客の急増した地域などでポイ捨てが増え、ごみの集中するごみ箱はあふれて深刻な社会課題になっています。捨てられたごみの一部は海に流れ着き、海洋ごみの問題にもつながっていくのです。

ごみ箱のない場所で一人がポイ捨てを始めると、さらなるポイ捨てを呼んでしまいます。街中の適切な場所に適切な数のごみ箱が置いてあれ

ば、ポイ捨ては減ると考えています。私たちの会社が提供するスマートごみ箱「SmaGO（スマゴ）」を導入した自治体などからは「ごみの散乱が少なくなった」という声が多く届いています。

スマゴはごみを自動圧縮して通常の約5倍の容量が入ります。蓄積状況がオンライン上で見られ回収のタイミントを通知してくれ、太陽光発電のみで動きます。ごみはあふれにくく、回収コストを削減することが可能なのです。

スマゴは観光庁や環境省からの補助金を活用し、さらに企業に協賛していただくスキームも使って全国で約600基が導入されています。一部の設置場所ではアートを施してラッピングする取り組みも進んでいます。ごみ箱がきれ



もりした・ゆりな 2001年、東京都生まれ。学生時代にスマゴを知り、広めたいとの思いからスマゴを展開するフォーステック（東京）に入社。東京・渋谷でごみ拾いの活動やイベントも企画、開催。

スマートごみ箱「SmaGO」販売会社勤務 森下優利奈さん

いだと、きれいに使おうという気持ちを持っていただけると、分別率の向上や資源循環につながっています。

ごみは各自で持ち帰ろうという声もありますが、公共のごみ箱が少ないために、結果としてコンビニのごみ箱や公共トイレの個室内などにも多くのごみが捨てられてしまっているのも現実です。私たちは街のインフラとして必要な場所にごみ箱はあったほうがいいと考えます。

ごみの問題と向き合い、街と人々、企業などが協力し、ごみ箱を設置、管理することによって、街をさらによくしていくという気持ちになります。きれいな街づくりを目指すことで住民の方向士が自然になり、街への愛着が深まります。意識や行動が変われば、シビックプライド（地域への誇り）も醸成されるのではと思っています。

（聞き手・辻渕智之）